

にこの内一・六個位が日本に上陸する、しかもその時期は殆ど毎年八〜九月に集中するとの事です。地震も台風も今の処、これを防ぐ方法はありません。

支笏湖二泊旅行を終えて

事業委員 佐々木敏志

恒例の一泊旅行が九月十四日から十五日の日程で支笏湖温泉「休暇村支笏湖」を宿泊場所として実施されました。十四日は、秋の気配の漂い始めた爽やかな陽光の中、福祉センターを出発して「芸術の森」経由で一路支笏湖へ、急な峠道を越えてきらめく湖面が見えた時は一同から期せずして喚声が……。予定の三時に宿に到着し、それぞれ温泉に漬かったりしてのんびり過ごし、たあと、いよいよお楽しみ夕食会は、途中から「ピンゴゲーム」等もあり大いに楽しんだあと、二次会のカラオケなどでも盛り上がった。

「タクシーの日」ご招待を受けて

豊平分会 阪口モト子

札幌ハイヤー協会のご好意で毎年ご招待をいただいている観光旅行が八月七日に実施された。自宅までタクシーが迎えに来てくれ、出発式の行なわれる市役所へ、市長のご挨拶をいただき、華やかなセレモニーでした。

普段から災害が起きた場合の対策(避難、携行品)について考え、準備しておきましょう。特に身体が不自由な私達は、健常者以上に考えておかなければと思います。

翌十五日は生憎の曇天だったが幸い雨は落ちてこず、遊覧船による湖水めぐりや湖底見学も無事に楽しめた。帰路は千歳經由恵庭の道の駅「花ロード」にわ〜で休憩をとり、食事や野菜直売店での買い物などをして札幌へ。

車中では、早くも来年の旅行を待ち望む声も出るなど、参加した四十三名が十分に楽しんだ二日間でした。



私達は小樽方面コース、高速道路を走る車中も天気も良く心が弾んだ。小樽に入って、まず天狗山にロープウェイで登る。頂上から眺める海はグリーンで空は青く、空と海が一体となって遠くまで続き、気分もさわやかになる。三十分程休憩し、市内中心部へ。古い建物が多く、明治・大正に建てられたような石造りの銀行、郵便局もまだ健在です。運河通りも観光客、家族連れで賑わっていました。

大通公園は今年で百周年を迎えました。札幌市内には、市民の憩いの場として、造成された順に、円山公園、中島公園、大通公園の、三か所の大きな公園があります。今回は、そのうちのひとつ、大通公園西一丁目から三丁目を散策してみたい。

大通公園散策記

西一丁目には大通公園のシンボルテレビ塔があります。テレビ塔は昭和三十一年十二月北海道初のテレビ電波塔として完成し、規模は、高さ一四七m、展望台は高さ九〇mの所にあり、当時は札幌市内を始め石狩平野を一望できました。中ほどにある電光時計は高さ五・五m幅九・五mで日本一の大きさを誇っています。その北側には札幌中央警察署大通交番があり、現在の建物は昭和四十七年に建てられました。南側中央には豊平川水位塔があり、豊平川が氾濫した際の水位を表示しています。また現在札幌市内では、安田侃(やすだかん)野外彫刻展が行われており(九月三日〜十一月二十日)西一丁目の中央には「妙夢」、西三丁目東側には「意心婦」のモニュメントがあります。

西二丁目には北側に、東側より、「花の母子像」「ベンソンの水飲み」「開拓母の像」の彫刻があります。「ベンソンの水飲み」は札幌の姉妹都市、米国ポートランド市より一九六六年寄贈されたものです。サイモン・ベイソン(一九四二年九十二歳で故人)は喉を乾かしている少女を見てこのタイプの水飲みを作り米国帰路、南小樽市場に立ち寄る。新鮮な野菜、魚貝類が並んで、売り手と会話をしながら沢山買い物をし、おまけまでしていただき少し得した気分です。内各地に寄贈したそうです。北側中央には「壁泉」(水が壁を伝わって滝のようには落ちていく)があり、清涼感を漂わせておられます。その西側横にあまり目立ちませんが「北海道電話交換創始の地」の碑があります。また、大通公園の各所に花壇があります。これは、札幌花壇推進組合加盟の企業ボランティアにより昭和二十七年より造られています。西三丁目にも彫刻や碑があります。北側東寄りに「牧童の像」、西寄りに「石川啄木歌碑」、西側中央に「泉の像」南側東寄りに「潮風の像」。石川啄木歌碑には「しんとして 幅廣き街の 秋の夜ほいよ」との歌が、元札幌市長板垣武四氏の字で添えられています。おられます。「潮風の像」は、地下鉄東西線の開通を記念して、昭和五十一年六月建てられたものです。大通公園の何方所かに噴水がありますが、ここにも中央に大きな噴水があり、市民や観光客の憩いの場になっております。ちなみに、この噴水は十五分間に十六通りの変化をします。

大通公園にはたくさん樹木(九十二種四七〇本)がありますが、目に付いた主な樹は、ニセアカシア、サトウカエデ、アメリカノウゼンカズラなどでした。秋の小春日和に散策も楽しいものです。(谷口)

樽を後にする。楽しい一日を過ごさせていただきました。関係者の皆様、心から感謝申し上げます。